

第12回日本食海外普及功労者表彰受賞者講演内容

村山 晴政

ただいまご紹介にあずかりました東京フードの村山です。この度は大変光栄な賞をいただきありがとうございます。私は1986年10月の2日、前年度より導入されたワーキングホリデービザを使いニュージーランド、オークランド空港に降り立ちました。前日に日本で言う消費税、GSTが導入され、物価が高騰したのをよく覚えています。銀行利息は25%を超えていました。当時は日本食レストランはオークランドに3軒、首都のウエリントンと南島のクラストチャーチに各1軒の5軒のみでした。日本食材が買えるのも私の知る限り中国系の3店舗の小売店のみでした。日本食はもっと広がると感じ、食品貿易の経験はありませんでしたが、翌年の12月にニュージーランド最大の都市であるオークランドの街の片隅に50平米にも満たない飛鳥という日本食の小売店をオープンしました。まだニュージーランドは管理貿易の時代で最初の輸入に莫大な書類を用意し申請したのを覚えています。翌年の4月に各種規制が撤廃され自由貿易体制となり、食材の輸入が簡素化されました。オープンから4、5年はジャパニーズフードスーパーマーケット飛鳥の顧客の95%以上は日本人でした。日本食レストランはあまり増えずともニュージーランドに日本食が浸透したとは言えない状態でした。その後、日本のバブル経済とその崩壊、円高などを経てフードコートなどに寿司店がオープンし日本食ブームがやってきました。昔は子供のお弁当におにぎりや巻き寿司を入れると真っ黒な海苔を見て馬鹿にされましたが今ではハンバーガーやピザに匹敵する子供も大人も大好きな食べ物となりました。

現在、飛鳥はトレーディングネームをジャパニマートに変え、店舗数もNZ全土で6店舗となっておりますが、顧客は90%以上がニュージーランド人、台湾人、シンガポール人、韓国人など日本人以外となり今やしっかり現地に根ざしております。食材の卸部門も今年度、タウランガ支店で5支店となりニュージーランド全土への供給体制ができ上がったと思います。オセアニアで1番になるという夢を掲げ、14年程前に西オーストラリアのパースにある日本フードサプライ社を買収いたしました。ニュージーランドとオーストラリアで会社名が異なるのはこの理由からです。近いとはいえ、ニュージーランドとオーストラリアの輸入規制は違いますので勉強するつもりで世界で最も孤独な都市と言われるパースでビジネスをスタートする選択をしました。オープニングのスタッフの病気などで当初は苦労の連続でしたが、少しずつ軌道に乗り、5年後にはオーストラリア経済の本丸であるシドニーに進出しました。当初、毎年、100%以上ビジネスが拡大しましたので、短期間に倉庫の引っ越しを繰り返すこととなりました。シドニー支店は昨年度更に拡張し、今年、北部に第二倉庫をオープンしニュージーランド本社に匹敵する規模となりました。2年前にメルボルン支店をオープンし、4年前にオープンしたブリスベン支店を10月に3倍規模で移転を完了し最低限の展開ができる規模になったと思います。

今後も世界中に日本食の市場は、拡大していくと確信していますが、まだ日本の産業の中で最も食品業界の輸出体制が遅れていると思います。ジャパニーズフードが広がり、認知度が上がるに従い、様々な輸入規制や障壁が強まり日本からの食材輸出の足かせとなっています。もちろん各国の日本食に対する知識不足や関心の薄さによるものも多数ありますが、その原因の一部は、日本独自の基準設定や各メーカーによる賞味期限という曖昧な賞味期間設定などがあげられます。海外では加工商品については消費期限での運用がほとんどです。政府関係者の皆様にはぜひともそれらの課題に取り組み、日本食を海外で

さらに普及させることができる体制を、確立を行っていただけることを大いに期待しております。そうすれば日本食は世界で飛躍的に伸ばしていくことができると思います。東京フードグループとして来年度新たに小売店を2店舗オープンする計画とオーストラリアを含めメインストリームにおせんべいなどプライベートブランドの新商品の展開計画を実現したいと思います。本日はありがとうございました。